

第6回実務者協議 [H29.12.15]

協議後の報道機関に対する説明概要（札幌市まちづくり政策局プロジェクト担当部長）

本日举行しました実務者協議、第6回目ということですが、その概要についてお話ししたいと思います。

まず、本日の協議ではですね、「道立真駒内公園」における新球場の建設につきまして、札幌市の考え方をファイターズさんの方にお示ししまして、これを踏まえた協議を進めていきたいというふうにお伝えしました。

ファイターズさんからは、札幌市が示した考え方に沿って検討を進めていくことについてご了解をいただきました。

「道立真駒内公園」においてはですね、これまで様々な報道がなされ、情報が錯綜していることもありますので、改めてこれまでの経緯・経過や札幌市の考え方、あるいは、今日資料もお配りしておりますけれども、本日、ファイターズさんにお示した内容について説明させていただきたいと思えます。

まず、これまでの経過についてでございますけれども、札幌市といたしましては、新球場建設構想の市内での実現に向けまして、来場しやすさという観点からアクセス性を最重要視するとともに、周辺道路の状況等を考慮しまして、ご承知のように今年の4月にですね、「共進会場跡地周辺」と「北海道大学構内」の2箇所を候補地として提案したところでございます。

この2候補地につきましては、ファイターズさんと協議を重ねてきたところでございますけれども、いずれの候補地も建設地としては難しさがあるということがございますけれども、引き続き協議を継続していきたいというふうに考えております。

一方、「道立真駒内公園」につきましては、提案した2候補地と比較しまして、交通アクセスの優位性が低いほか、冬季オリンピック・パラリンピックの招致におきましてスピードスケート等の競技会場としておりましたことから、今年の4月時点では、候補地としての提案を行いませんでした。

その後ですけれども、スピードスケートの競技会場につきましては、帯広市での開催を最優先に議論することにしたことですか、「道立真駒内公園」の施設所有者であります北海道の考えとして、屋内の競技場は国立での建替えを要望すると、屋外競技場は現状維持とするということでありまして、新球場建設の検討につきまして、札幌市がファイターズさんと協議を進めることに問題はないということが確認できましたことから、新球場の建設を検討することが可能となったところでございます。

しかしながらですね、「道立真駒内公園」につきましては、提案済みの2つの候補地と比較しまして、交通アクセスの優位性が低いほか、公園環境ですとか、周辺環境といった『考慮すべき事項』があると考えております。

そこでですね、本日は、「道立真駒内公園」におきまして新球場の建設を検討する際の札幌市の考え方をファイターズさんにお示しし、これを踏まえた協議を進めていきたいというふうにお伝えしたところでございます。

お配りした資料をご覧になっていただければよろしいのですが、簡単にですね、考え方の要点をお伝えしますと、基本的には、新球場の建設にあたりましては、屋外競技場の場所を中心に検討を行うこととして、広場や自然林が広がる南側のエリアや既存の樹木等といったみどりについては極力保全を図るということでございます。

また、多くの方が来場しやすい場所、環境の確保ですとか、周辺道路への負荷の軽減、あるいは周

辺住宅地への影響軽減といった『考慮すべき事項』をお伝えしました。

今お話したことは、主に裏面の左側になりますけれども、『検討にあたり考慮すべき事項』として記載しております。

今後ですけれども、これらの考え方を基にしまして、「道立真駒内公園」での新球場建設の可能性を協議していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

それから、次回実務者協議につきましては、時期ですとか、内容ともに年明けに調整していきたいというふうに考えてございます。

私からの説明は以上でございます。

以上